（別記）調査研究成果の概要、及び所感

1　日程　令和６年２月６日（火）～2月７日（水）

2　場所　福岡県太宰府市役所　６日（火）午後２時から４時００分
九州国立博物館、及び大宰府天満宮　７日（水）午前９時から午後３時

3　目的　行政視察

(1) 太宰府市の歴史文化を教育や観光政策に生かす取り組みについて
○文化財保存活用地域計画は市政にどう生かされているか。
○上記計画は市民にどのように共有されているか。
○大宰府天満宮の存在は、年間１，０００万人に迫る観光入込客を呼び込むうえで、市政上どのような位置づけと連携がなされているか。
※赤ちゃんの駅の取組みについても打診していたが、事前に「資料提供のみ」ということであったが、資料提供は無かった。

4　福岡県太宰府市の概要

太宰府市は、福岡市の南東およそ 16 ㎞の場所に位置し、宇美町、筑紫野市、大野城市などに隣接している。市域面積は 29．60 ㎢。国勢調査人口によれば、令和２年に 73,164 人で、全国的に自治体人口が減少するなか、近年は漸増傾向にある。これは福岡市のベッドタウンとしての要因が大きい。

市内には九州自動車道、国道３号、福岡都市高速道路、及び県道筑紫野・古賀線をはじめ 10 の県道が走っている。また、九州自動車道大宰府インターチェンジ、福岡都市高速道路水城インターチェンジがあり、交通至便の自治体として存在している。

産業構造は、第一次産業がほとんどなく 0.7%、第二次が 15.9%、第三次が 80.1%。
平成に続く現在の元号「令和」発祥の地としても知られる。

市の名からも明らかなとおり、古代において大宰府政庁が置かれた所として、九州地方の政治・経済・外交の要として栄えたばかりでなく、わが国の対外的な軍事、防衛上の重要拠点としての役割も担ってきた。

このような歴史的、また地理的な特色を生かし、太宰府市では「歴史と文化とみどりのまち」、「学問のまち」、「福岡都市圏のベッドタウン」、「交通の要衝」として市政の発展を目指している。

また、平成17年10月15日に、国内4番目となる九州国立博物館が開館し、これまでに1,750万人の来館者を数えている。古代からの豊富な歴史文化遺産とともに、これらの遺産を公開、展示する国立施設を有していることは極めて恵まれている。

5　視察研修テーマ　太宰府市の歴史文化は教育や観光政策にどのように生かされているか。

太宰府市は、古代に大宰府政庁が置かれたところから、「西の都」あるいは「遠の朝廷」と呼ばれたところである。令和2年には、同市と隣接する福岡県筑紫野市、大野城市、春日市、那珂川市、宇美町、佐賀県の基山町の5市2町で構成する日本遺産「古代日本の『西の都』～東アジアとの交流拠点～」が認定された。太宰府市はその中核拠点と言うべきまちである。

太宰府市では、令和4年（2022）7月、文化財保存活用地域計画を策定した。市内には平成17年（2005）10月に完成した九州国立博物館も立地し、隣接する大宰府天満宮の存在と相まって、豊富な歴史文化遺産と活用の拠点とが揃っている。

市域面積29.60㎢のうち、16%にあたるおよそ480haが史跡地となっている。

先の日本遺産に加え、市内の伝統行事や名所等を対象とした「太宰府市民遺産」を選定し、市民の文化意識を向上させる取り組みにも力を入れている。

同市への近年における観光客年間入込数は、平成29年度10,920千人をピークに、30年度10,653千人、その後令和元年度8,178千人、そしてコロナ禍の2年度は2,322千人と激減したが、4年度は7,284千人と回復傾向にある。

市内には文化遺産が目白押しで申し分ないと思われるが、もちろん課題もある。観光スポットは太宰府天満宮周辺エリアと大宰府政庁跡周辺エリアに大別されるが、観光客は大宰府天満宮周辺エリアに偏っているということである。どちらも「大宰府」という歴史的文化的に重要な要素を核としていることは間違いないが、現状は菅原道真が左遷されて以降に造営された大宰府天満宮に人気の中心があるようだ。市ではこのふたつの観光エリアをともに一体的な資源として展開したいと考えているが、なおうまくいっていない。

また、観光客の滞在時間や観光消費額にも大きな課題がある。滞在時間は、35.9%が2時間未満、78.7%が半日未満であり、観光消費額は67.0%が5千円未満、92%が1万円未満と少ない。滞在時間が短いのは、市内に宿泊施設が少ないことが大きな要因である。

また、観光目的の上位は、観光（歴史）58.0%、観光（文化）40.4%、観光（食）35.8%、観光（自然）23.9%、観光（リラックス）16.3%である。下位に属するものとして、登山4.2%、体験・アクティビティ3.3%などである。（以上、令和4年度調査から）

つまり、観光客は「見て」回って「食べる」ことが主体の動線となっている。市内に宿泊しないため、滞在時間も観光消費額も伸びない。

研修視察第１日の２月６日（火）も、大宰府政庁跡周辺には観光客らしい人の姿は見えなかった。広々とした政庁跡では、親子連れや若いひとたちが数人遊んでいるだけだった。その多くは地元の人と思われる。

ところが、視察２日目に訪れた太宰府天満宮周辺は、平日にもかかわらず、まるで縁日のようなにぎわいであった。天満宮の参道は観光客で埋め尽くされ、参拝する人、茶屋で食事する人などで、ごった返していた。

観光客の太宰府市への誘因のもうひとつは、九州国立博物館への入館である。開館以来1,750万人の来館者を数え、２月７日（水）は、長沢芦雪展の影響もあろうが、多くの入館者でにぎわっていた。

九州国立博物館は太宰府天満宮に隣接して建設されている。このことが観光客の脚をこのエリアに偏って強力に引きつける原因であろう。

同市では太宰府天満宮との連携をさらに強化しながら、天満宮周辺の観光客の脚を大宰府政庁跡周辺にもみちびく試みを続けている。まちの歴史文化による観光振興を図るためには、さらに歴史文化遺産をストーリーの中心に据え、学校教育にも生かしていくことが課題であるとのことであった。

６　所見

本市も令和５年４月１日、「歴史文化都市宣言」を行い、９月には文化財保存活用基金条例を設置し、基金の醸成を図っている。また、市民遺産の検討にも着手した。

国史跡網野銚子山古墳は、令和６年度で所期の整備が整うが、市内には他の国史跡を始め、数えきれないほどの重要文化遺産が存在する。本市の特性を考える場合に、景観の美しさ、海山の美味しい食材と料理、そして温泉は言うまでもないが、画竜点睛を欠くことになっているのが、歴史文化財活用のためのさらなる投資である。

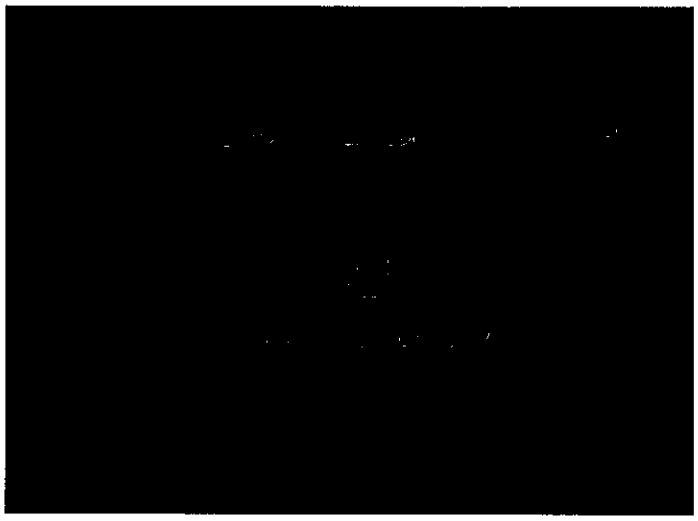
間もなく歴史文化都市宣言後、２年目を迎えるが、この宣言を実体あるものにするため、市としても教育委員会としても今後、文化財保存活用地域計画をもとに、観光振興はいうまでもなく、学校教育や生涯学習の分野でさらに力を入れていくことが必要である。

7　写真

太宰府市役所前で

太宰府市職員から説明を受ける

配布された資料の表紙



※ 当初「調査研究計画書」より

（別記１）　視察研修内容の概要

1　太宰府市役所　２月６日（火）午後２時から４時００分（希望時間帯）

① 太宰府市の歴史文化を教育や観光政策に生かす取り組みについて

○文化財保存活用地域計画は市政にどう生かされているか。

○上記計画は市民にどのように共有されているか。

○大宰府天満宮の存在は、年間1，000万人に迫る観光入込客を呼び込むうえで、市政上どのような位置づけと連携がなされているか。

② 赤ちゃんの駅について（質問事項。回答は書面）

○設置のねらいと利用状況

○赤ちゃんの駅が子育て等に及ぼす影響や効果

○今後の考え方や展開の方向性

（別記２）視察研修行程表

２月６日（火）

京丹後市役所（レンタカー）⇒伊丹空港⇒福岡空港⇒（レンタカー）

7：00発　　（10：30・・11：45）

⇒太宰府市役所⇒　宿所17：00着

（14：00～16：00）

２月７日（水）

宿所（レンタカー）⇒太宰府市内視察⇒福岡空港⇒伊丹空港（自動車）

⇒京丹後市役所　　（19：10・・20：30）

23：00着

２月６日（火）の宿泊先　博多中州ワシントンホテルプラザ

☎092-282-0410

（備考）　太宰府市内に適当なビジネスホテルが見つからなかった。